



# 私たちができることは、何だろう？

## どうしたらいいの？



気候変動への対策は、大きく分けて「緩和」と「適応」の2つがある。  
 このうち「緩和」は、気候変動の原因となる温室効果ガスの排出を減らす対策じゃ。  
 一方、気候変動による影響は避けられないことから、気候変動からの被害を防ぐ  
 ための対策である「適応」も進めていく必要がある。  
 この「緩和」と「適応」を両輪として進めていくことが重要なんじゃ。



### ●緩和と適応は車の両輪

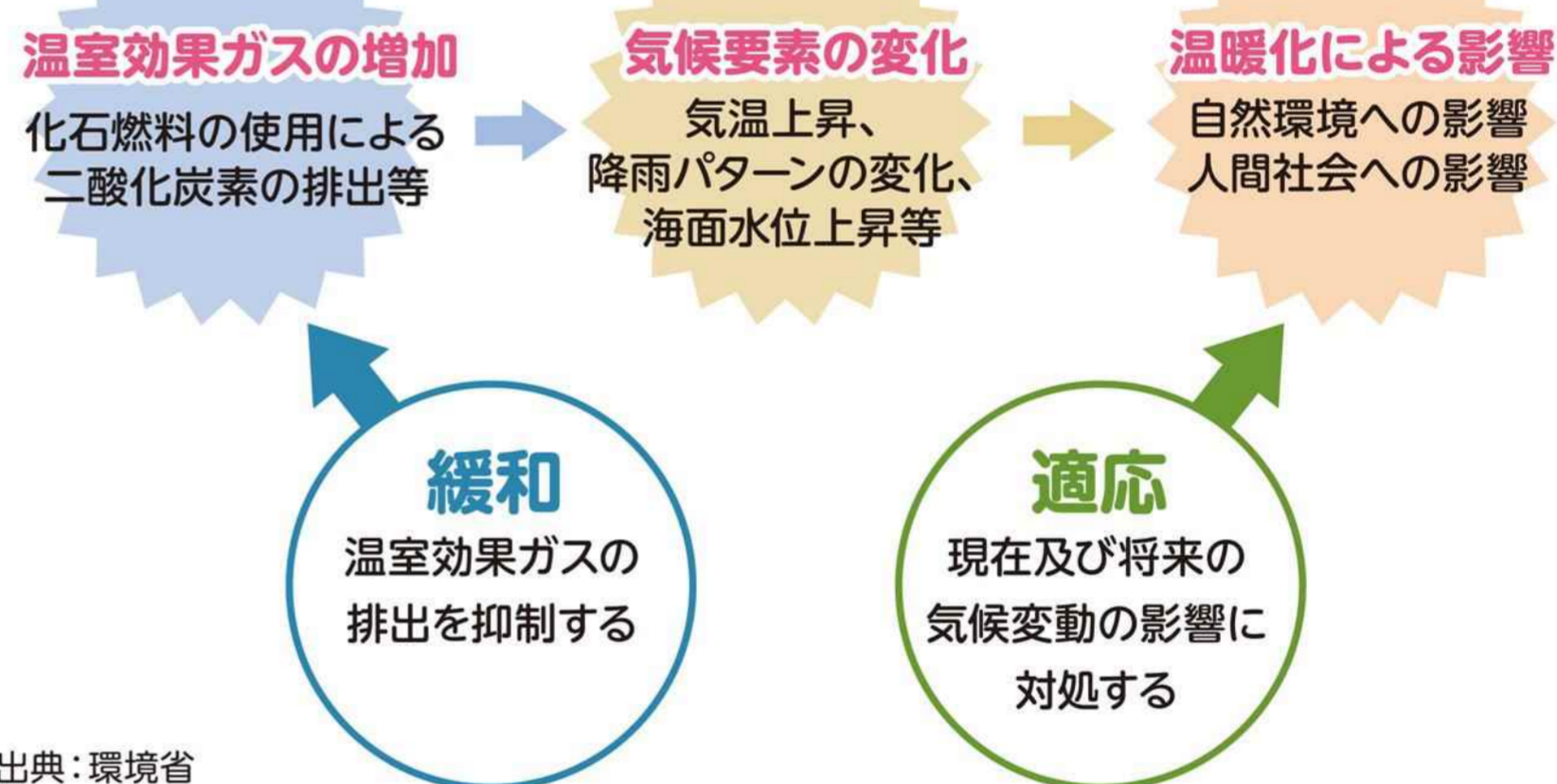
緩和

気候変動の原因となる温室効果ガスの発生をできるだけ減らすこと

適応

既に生じている、あるいは、将来予測される気候変動の影響による被害を回避・軽減すること

### 気候変動と緩和策・適応策の関係



出典：環境省

### ●緩和と適応の対策例

## 緩和とは？

原因を少なく

## 2つの気候変動対策

## 適応とは？

影響に備える

**緩和策の例**

- 節電・省エネ
- エコカーの普及
- 再生可能エネルギーの活用
- 森林を増やす

温室効果ガスを減らす

**適応策の例**

- 感染症予防のため虫刺されに注意
- 熱中症予防
- 災害に備える
- 水利用の工夫
- 高温でも育つ農作物の品種開発や栽培

気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること（緩和）が重要です。

緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと（適応）が重要です。

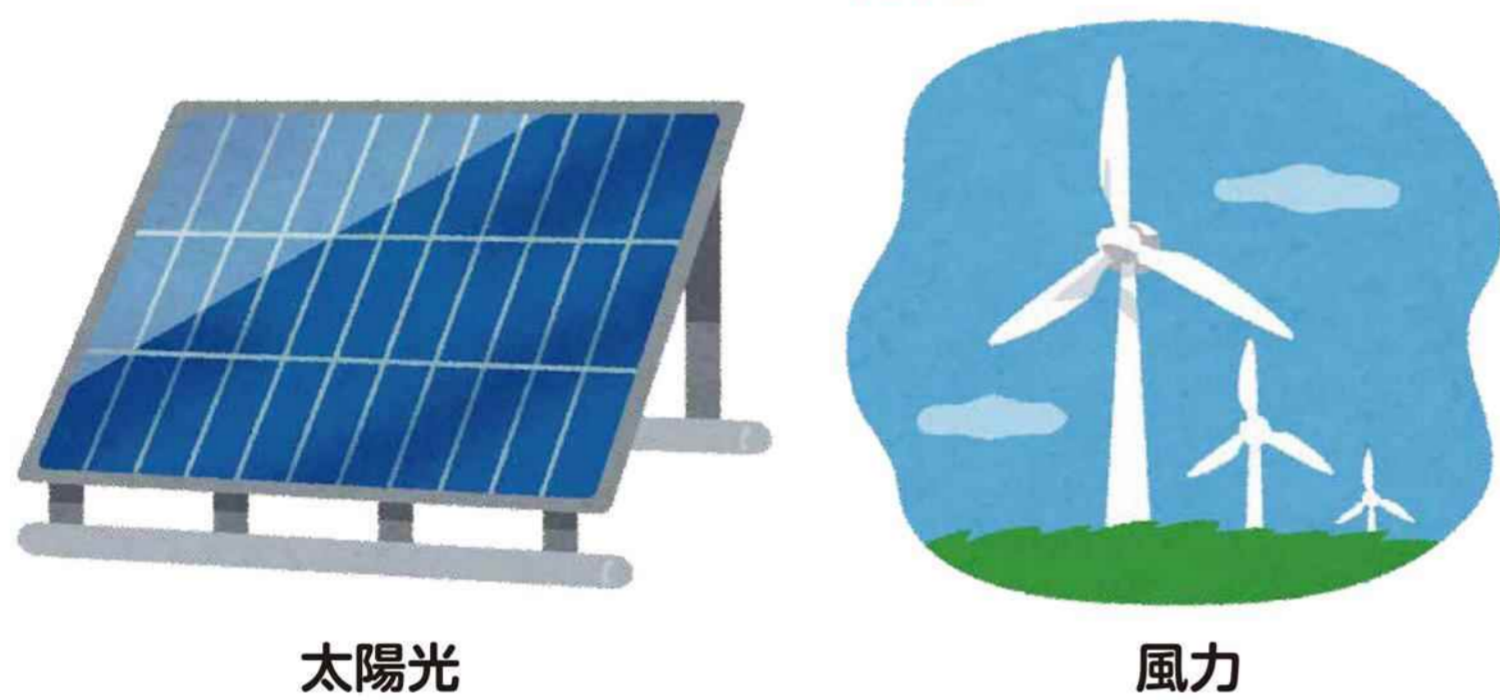
かんわさく  
**緩和策にはどんなものがあるの？**

温室効果ガスの排出量を減らす「緩和策」としては、石油や石炭などの化石燃料をできるだけ使わないこと、モノやエネルギーを大切に使うこと、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収する森林などを守り育てていくことが大切じゃ。ここでは、代表的な緩和策を紹介しているぞ。



緩和策  
**1**

太陽光や風力などの再生可能エネルギーを利用する



太陽光

風力

緩和策  
**2**

節電・節水や、エコドライブを行うなど、エネルギーを大切に使う



エコドライブ

節電

緩和策  
**3**

エネルギーをあまり使わないLED照明や、省エネ型の家電、エコカーなどを使う



省エネ型の家電

電気自動車

緩和策  
**4**

バスや徒歩・自転車など、自動車以外の移動方法にする



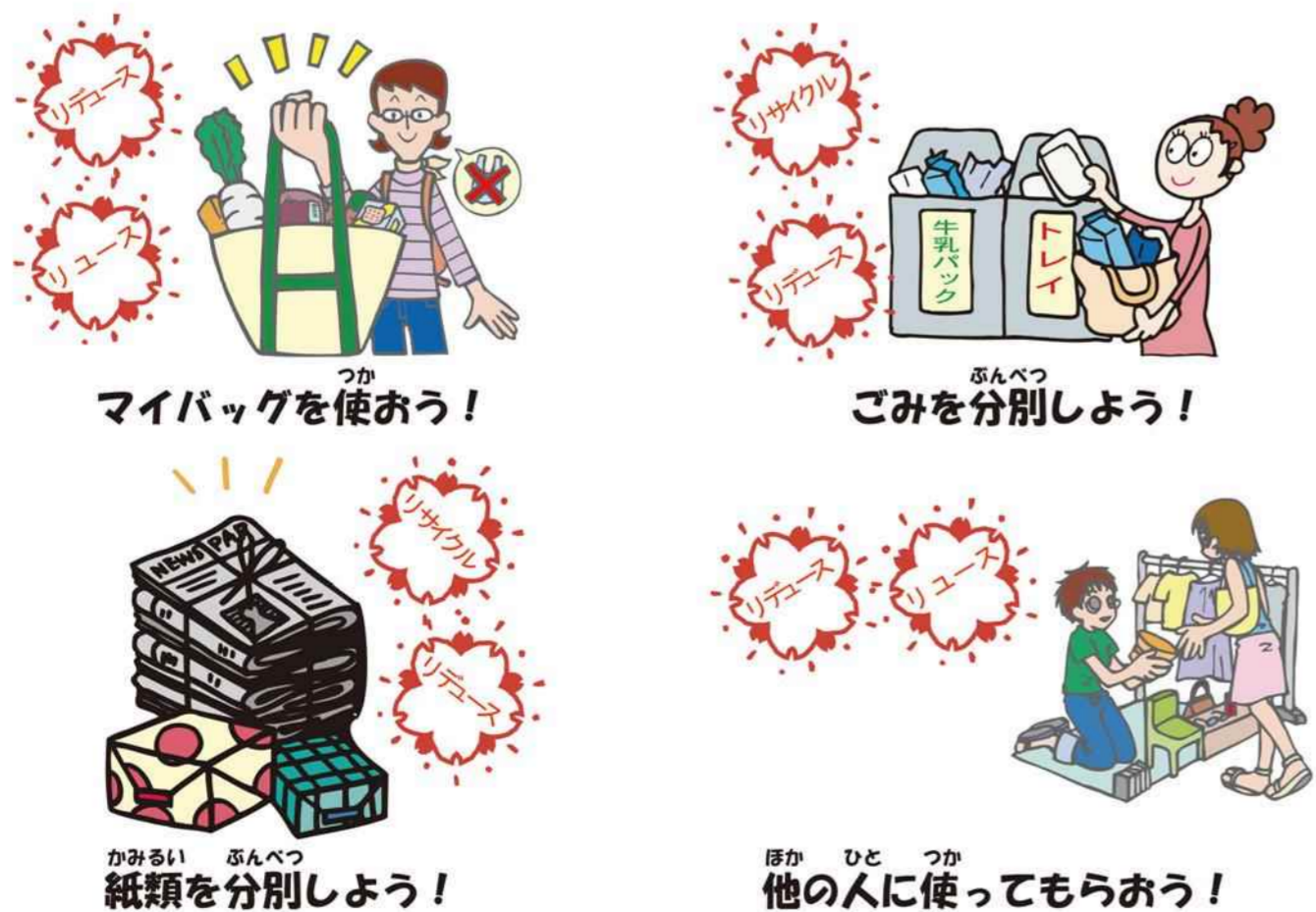
基幹急行バス「でいごライナー」 出典：わたたーバス党

自転車

徒歩

緩和策  
**5**

ごみを減らし、リサイクルに取り組む



マイバッグを使おう！

ごみを分別しよう！

紙類を分別しよう！

他の人に使ってもらおう！

ごみを減らしていくために～3Rチャレンジ

出典：小学生環境読本 沖縄の環境（平成30年（2018年）3月発行）

緩和策  
**6**

CO<sub>2</sub>を吸収する木を増やす



かんわさく  
**私たちにできる「緩和策」ってなんだろう？**



暮らしの中で取り組める「緩和策」として、日本各地で「デコ活」の動きが広がっている。「デコ活」とは、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)と環境に良いエコ(Eco)という意味を含む「デコ」と、活動・生活の「活」を組み合わせた新しい言葉で、二酸化炭素を減らす環境に良い活動という意味が込められているんじゃ。



**Q** 「デコ活」で私たちの生活がどうなるか、想像できないわ。どのような生活になるのかしら？



**A** 下にある絵を見ておくれ。省エネや節水、ごみの削減に取り組んだり、自転車やバスを使ったり、テレワークを進めたりすることで、二酸化炭素を減らせるだけでなく、節約したお金や時間を好きなことに使えるんじゃ。そんな豊かな暮らしを目指して、できることから、日々のデコ活に取り組んでみるとよいぞ。

環境省

**デコ活** 暮らしの中のエコロがけ

**脱炭素** につながる **新しい豊かな暮らしの10年後**

- 太陽光発電: 年5.3万円 DOWN (災害時にも使える)
- 住宅の断熱化 (窓・屋根・壁・床): 年9.4万円 DOWN (ヒートショック防止)
- 高効率給湯器: 年3.5万円 DOWN
- はかり売り・自動決済: 年3時間 UP (好きなものを好きなだけ)
- LED照明: 年3千円 DOWN (年0.4時間 UP)
- 省エネ家電 (冷蔵庫・エアコン・HEMS): 年2.8万円 DOWN
- サステナブルファッション: 機会がある方はみんなで
- 公共交通・自転車・徒歩: 年1.2万円 DOWN
- 次世代自動車: 年7.5万円 DOWN (自動運転で年323時間 UP, 給油不要なら年2時間 UP)
- テレワーク: 年6.1万円 DOWN (年275時間 UP)
- ごみの削減・分別: 年4千円 DOWN
- クールビズ・ウォームビズ: 年4千円 DOWN
- 地産地消・食べきり: 年9千円 DOWN
- 節水 (キッチン・洗濯機・シャワー・トイレ): 年1.6万円 DOWN

毎月3万6千円浮きます (年43万円) 一日プラス1時間以上を好きなことに (年388時間)

出典：環境省

かんわさく くわ  
「緩和策」を詳しく見てみよう



緩和策の中から、代表的なものをいくつか詳しく紹介するぞ。



私たちの生活にどんなふうに関係しているのかな。

再生可能エネルギーって何だろう？

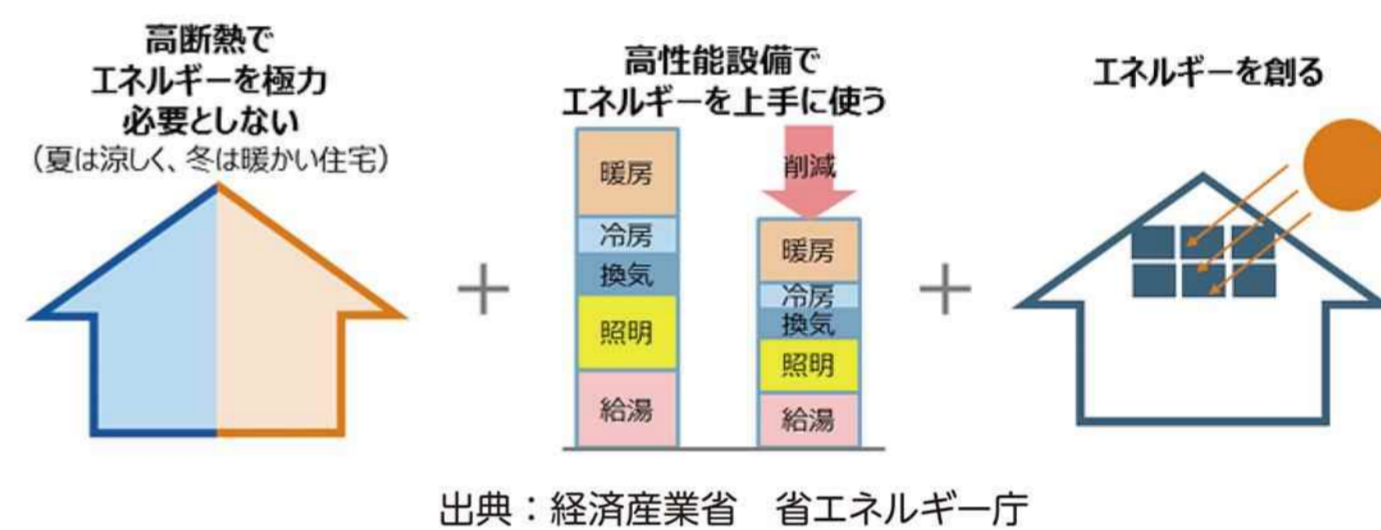
地球上には、太陽、風、水など、自然の恵みがたくさんあります。こうした自然を利用し、繰り返してつくり出せるエネルギーを『再生可能エネルギー』（再エネ）といいます。再エネ設備として、住宅では太陽光発電や太陽熱温水器などが多く導入されています。



ZEB(ゼブ)・ZEH(ゼッチ)とは？

ZEBとは業務用施設の一つで、省エネによって使うエネルギーをへらし、使う分のエネルギーをつくることで、使うエネルギーを実質ゼロにすることを目指した建物のことです。このような設備を住宅に導入したもののとして、ZEH(ゼッチ)というものもあります。

※ZEB：ネット・ゼロ・エネルギー・ビル  
ZEH：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス



出典：経済産業省 省エネルギー庁

車の利用方法を考えることも大切です！

ふんわりアクセル、アイドリングストップなどの「エコドライブ」、空気を汚す排気ガスが少なく、燃費がいい「次世代自動車」の利用など、環境にやさしい車の利用方法を考えてみましょう。便利な車もいいですが、徒歩・自転車と組み合わせたバス・モノレールの利用は、環境にも健康にもいいですよ！

次世代自動車の例



燃料電池自動車(FCV)



電気自動車(EV)

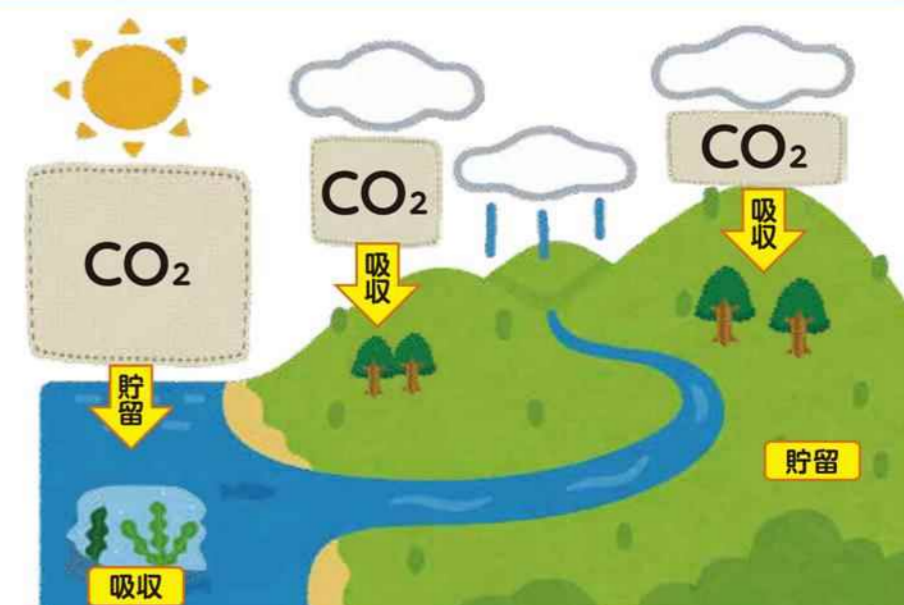
ごみを減らすことがなんで「緩和策」になるの？

化石燃料由来のプラスチックごみや合成繊維を燃やしたり、ごみの運搬や処分にエネルギー(化石燃料)を使うことで二酸化炭素が発生します。そのため、モノを大事にして、ごみを減らすための3Rに取り組むことが、温室効果ガスを減らす「緩和策」につながります。



吸収源ってなに？

温室効果ガスの中で最も影響が大きい二酸化炭素を増やさないためには、二酸化炭素を吸収する森林が重要な役割を果たしています。このような、二酸化炭素などの温室効果ガスを吸収してくれる「吸収源」には、森林のほか、土壌、海などがあります。皆さんも、植樹活動など、木々を増やしていくための取組に参加してみませんか？



## かんわさく 沖縄県内ではどんな「緩和策」が取り組まれているの？

だつたんそ  
脱炭素社会の実現に向けて、県内でも色々な「緩和策」が取り組まれている。  
いちれい しょうかい  
ここでは、その一例を紹介するぞ。



### 再生可能エネルギーに関する取組

#### たいようこうはつでん ●太陽光発電

太陽光発電は、太陽の光エネルギーを電力に変える再生可能エネルギーです。八重瀬町庁舎では、年間使用電力量の約30%を太陽光発電で供給し、年間約72tのCO<sub>2</sub>の削減につながっています。



八重瀬町庁舎における太陽光パネル

#### ●海洋温度差発電

海洋温度差発電は、海の表層にある温かい海水と深海の冷たい海水の温度差を利用して電力に変える再生可能エネルギーです。久米島町では、商用化に向けた実証試験が行われています。



海洋温度差発電実証試験設備 (久米島町)

### 省エネに関する取組

#### しょう けんちくぶつ ●省エネ建築物

市役所やホテル、老人ホームなど、県内の様々な施設で建物の省エネ化が図られています。この写真は宜野座村役場で、太陽光発電や省エネ空調、LEDなどの導入によりエネルギーを50%以上削減しています。



出典:(一社)環境共創イニシアチブ

#### てんかん ●電動車(EV・PHEV)への転換

県では、公用車を電気で動くEVなどの電動車に転換する取組を進めています。また、県内では、EVバスの導入や、県産EVの開発など、様々な取組が進められています。



### 吸収源に関する取組

#### きゅうしゅうりょう にんしょうせいど ●沖縄県CO<sub>2</sub>吸収量認証制度

この制度は、企業などが植える樹木が吸収するCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)の量を県が認めるというものです。樹木を植えるきっかけとして制度を利用してもらうことで、県内の緑の輪を広げています。



制度を利用した植樹

#### ●ブルーカーボン

ブルーカーボンとは、海藻など海の生き物などに吸収される二酸化炭素のことで、新たな吸収源として注目されています。県内では、モズクがどれだけ二酸化炭素を吸収するか琉球大学などが調査研究を進めています。



出典:(公社)日本水産資源保護協会

節電・節水やごみの削減などの身近な活動から、電灯のLED化や省エネ家電への買い換え、そして再生可能エネルギーや次世代自動車の利用など、生活の中でも温室効果ガスを減らす方法は色々あります。どんなことができるか考え、一つ一つできることから始めましょう!

